

また言われた。「あかりを持って来るのは、灯の下や寝台の下に置くためでしょうか。燭台の上に置くためではありませんか。4：21

隠れているのは、必ず現されるためであり、覆い隠されているのは、明らかにされるためです。4：22

「聞く耳のあるものは聞きなさい。」4：23

この燭台の上に置くために、明かりを持って来るという表現をしています。という事は普段は、そこにないという事です。わざわざ、この例えをイエスが話をしたのには理由があります。これまで、イエスは、これに入る前までには、わかり易く説明しています。このたとえ話に入ったとたんに突然、奥義を言わなくなり、秘められた事として弟子たちだけに公開しましたが殆どの人には公開しませんでした。イエスキリストは、基本的に人々にわかり易く話していたのにやめました。それは、イエスキリストが話している話をパリサイ人達が批判したのです。その時から彼は話をやめました。批判されたからやめたものではありません。すなわち聞く事を拒む人と、聞こうとする人の二人に分けられたという事です。

秘められた奥義という話は9つに分類されています。その9つのうち要約されているのは2つだけで、その1つがこれです。

さてイエスだけになったとき、いつもつき従っている人たちが、十二弟子とともに、これらのたとえのことを尋ねた。4：10

すなわち、イエスキリストは9つの例えを持って話をするのですが、基本的にこの例えの理解がなされないのであれば、他の例えは意味がわからないのですと言いました。イエスキリストが例えによって話された9つの例えの根本がここにあります。種まきの例えは神様が最初に道端に落ちたような種から、最終的に御言葉に従って歩むものが30倍、60倍、100倍の実を結ぶようになるというローマ書の『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。』(8:28)の約束に繋がっています。

■「燭台」

燭台(メノーラ)は聖所にあります。かくれている「もの」秘められている「もの」「言葉」を意味するダヴアール「隠れている言葉」「秘められている言葉」メノーラという言葉は「言葉」という意味。だから隠されているというのは何が隠されているのかというと「言葉」であると言われています。聖所というのは、覆われていて窓がありません。ですから真っ暗です。聖書にあったようにもともとは、真っ暗なので燭台は持つて置いて置かれるものです。秘められている所に光が灯されてわかるようになるという事なのです。ですから、祭司はこの明かりを持って幕屋の中に入っていきます。そして、そこを照らします。秘められている状況の中に光が置かれる、その光が置かれる時わざわざ隠しておくのかという事です。光を灯そうとするのに台の下に光など置きません。光を出すのは明るみに出すために置きます。ここで良く出されるのは隠されている事は明るみに出されるのですからあなたの人生をかけてあなたの内側に秘め事を持つのではなくイエスキリストの赦しを持っていきましょう。という話をされる事があります。それはそれで大切な事ですが、今回はその切り口ではなく、「奥義」としてこの燭台の御言葉を理解していきたいと思えます。あらわにされている「隠れているもの」に使われている。「ふさぐ、秘める」という意味のサータム、本来アブラハムが掘った井戸が彼の敵によって土で埋められ「ふさがれた」出来事を示した言葉です。

それでペリシテ人は、イサクの父アブラハムの時代に、父のしもべたちが掘ったすべての井戸に土を満たしてこれをふさいだ。創26：15

真理が現わされようとした時、いつもふさぐものがある事が描かれています。私たちが「聞かない」とき、この真理はふさがれていく事を覚えましょう。

■「ガーラ」

「あらわにされないものはなく」ガーラー動詞、大洪水の滅びを免れ、救い出されたノアの様子を表した言葉。

さて、ノアは、ぶどう畑を作り始めた農夫であった。創9：

20

ノアはぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になっていた。

創9：21

彼は苦境の中で全てを失い荒れ果てた地の中で農業をして大変な人生を歩きました。しかし、井戸を埋めず神の言葉に聞き従った彼の人生は明るみに必ず出された時に平安であったという事が言えるのです。この燭台の例えは神の言葉に聞き従ったものが苦境のなかで諦めずに戦い抜いた時、必ずその秘められた言葉があらわにされ、彼は平安の中で寝るのだという事が比喩された証である事を表現しているのです。すなわち、滅びと免れ「神の国」という永遠の平和と安息の中に住まうようになるという神の計画が奥義なのだという事なのです。

■「聞く耳のあるもの」

「聞く耳があるなら、聞きなさい」の「聞く耳」とはヘブル語で「耳」オーゼン

今、あの人の妻を返していのちを得なさい。あの人は預言者であって、あなたのために祈ってくれよう。しかし、あなたが返さなければ、あなたも、あなたに属するすべての者も、必ず死ぬことをわきまなさい。」創20：7

翌朝早く、アビメレクは彼のしもべを全部呼び寄せ、これらのことをみな語り聞かせたので、人々は非常に恐れた。創20：8

「しかし返さなければ、あなたも、あなたに属する全ての者も必ず死ぬ事を承知していなさい。」という神の御言葉を「聞かせた」(直訳では耳の中に入れた)と訳される。たとえ、知らなくとも罪を犯しそうになった彼がこの神の言葉に聞き従い恐れた。この恐れるというのは決してなにかに威圧されて恐れるのではなく、偉大な存在として、その価値を受け入れる。という事です。イエスキリストのした例えの全てが30倍、60倍、100倍というプロセスを通して、たとえ道端のあなたの現状が、そしてこの世の奇跡やこの世の恵みによって一時神様を信じて成長するが、いつも右往左往している人生でも、そして荒野の中で、いばらの中でいつもこの世の欲と戦ってだめになって覆われてしまう様な人の人生中であって試練の中に合いながら誘惑に勝ち続けるようとするなら結果、30倍、60倍、100倍の実を結ぶのだという表現を聖書全体が伝えているのだという事を、この例え話から、人々に伝えましたが全員にそれが伝えられたのではなく「聞く耳のあるもの」にかたられた。その聞く耳とはなんなのかというと、アビメレクのように神の御言葉の種がまかれた時にその言葉に聞き従おうとするスタイルという事を聖書は伝えているのです。

まとめ

私達の人生で私達が神の御言葉に聞き従う時いったい何なのかをもう一度考えなければなりません。

「聞く耳があるなら聞きなさい」とは神に対する恐れをもって聞きなさいという意味であります。神を恐れること、それが「聞く」という事です。

「聞く耳のある者は聞きなさい」という事は私達が耳に蒔かれた種を聞こうとする時、カラスが持って行ったり荒地があったり、いばらがあったり、そのような事が起こりますが、そんな中でそれでも聞き従おうとするあなたは良い地へと変えられていくのだという事です。なぜなら神の計画の結末は良い地だからです。創世記から黙示録までの壮大な神の計画は私達一人一人にも「良い地」を用意して下さっている計画です。イエスは神に聞き従うことをこの地上で貫いた人です。

『それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なされてください。』(マタイ26:39)

あなたの聞く耳と行動は本当に正しいですか？今一度自分の心と行動を確認しましょう。それが信仰の備えに繋がります。

(要約者:小根久保麻由美)

(2020年3月22日)